



## 第9回高分子分析討論会報告【2004】

2004年11月25日(木)、26日(金)の2日間、名古屋市工業研究所において標記討論会が高分子分析研究懇談会の主催で開催された。2000年以降は、名古屋と東京の交互開催となっており、7度目の名古屋開催である。約300名が参加し、長野悦子実行委員長(TRIテクノ)の開会挨拶から始まり、特別講演1件、ポスター発表73件、計74件の講演があった。会場が狭く感じられるほどの盛況であった(写真参照)。

ポスター発表は2日間の期間中、午前・午後の部、計4回に分けて行われ、3分間のプレビュー講演に続いて1時間半の討論時間が設けられる例年のスタイルで実施された。発表内容はクロマトグラフィー、質量分析を始めとして、NMR、IR・ラマン、SPM、表面分析、X線回折、TEM・SEMなど幅広い分析手法を用いて、構造解析、添加剤分析、定量法、状態分析、試料作製(前処理)法、標準化、迅速分析法など多岐にわたる応用例の発表が行われ、活発な議論がなされた。新材料、新技術、新分析法などに加えて、分析ノウハウにかかわる発表があり、高分子分析分野の現在、未来を知る格好の場となった。初日の午後には、「高分子の初期崩壊と自己修復」と題して武田邦彦教授(名大院工)の特別講演があった。高分子材料が金属材料をさらに代替するためには、「疲労」と「燃焼」に対する信頼性向上が重要であり、高分子の初期崩壊を感度良く解析するための分析法の必要性を説かれた。初期崩壊時の自己修復メカニズムについて、生物の代謝、「自然」、「伝統」に学ぶ姿勢が印象的であった。

さらに2日目の午後には「高分子分析討論会における分析技術動向3」と題して、香川信之氏(東ソー)を総合司会、落合周吉氏(エス・ティ・ジャパン)、杉浦元保氏(豊田中研)、山本 清(旭硝子)をパネラーとする総合討論が行われた。今年は、IR・ラマン(落合氏)、表面分析(杉浦氏)、形態観察(山本)の3分野について、高分子分析における現状と今後進むべき方向性についての議論がなされた。

閉会に先立ち、「ポスター賞」の発表が行われた。「ポスター賞」は展示方法、説明要領、研究内容を含め、いろいろな意味で優秀と思われるポスター発表に対して送られる賞である。高分子分析討論会実行委員、高分子分析研究懇談会運営委員およびポスター発表者による投票で選考された。講演タイトルおよび受賞者は次の8件である(発表番号順、敬称略)。

① オージェ分析による機能性高分子材料の評価

(日東分析センター)信田拓哉

② 反応熱分解GCによる共重合型ポリヒドロキシアルカン酸の組成分析と生分解挙動解析

(名大院)青井裕美

③ 微量混合物試料用マイクロ抽出器の開発と応用

(豊田中研)中井恭子

④ 高分子材料の断面解析3

(UBE科学分析センター)門間公俊

⑤ 深さ方向分析用傾斜切削機の開発と応用

(豊田中研)柏原寛親

⑥ コロイドプローブ原子間力顕微鏡法による高分子分散剤の吸着状態解析

(花王)小池 亮

⑦ Raman分光法によるポリスチレン粒子直径と分子量および多分散度の迅速な定量結果とSEC,MALDI-MSおよびLSとの比較

(九大院) 小名俊博

⑧ MALDI-TOF/MSを用いた合成高分子中の添加剤の直接分析

(旭化成)原田里香

討論会の最後は、高分子分析研究懇談会の後藤幸孝運営委員長(ダイヤ分析センター)が、記念となる第10回討論会へ向けた閉会挨拶で締めくくった。

[旭硝子株式会社 山本 清]



All Rights Reserved, Copyright (c) 2003, THE JAPAN SOCIETY FOR ANALYTICAL CHEMISTRY